

■・BASF

We create chemistry

新規殺虫剤

エフィコン[®]SL

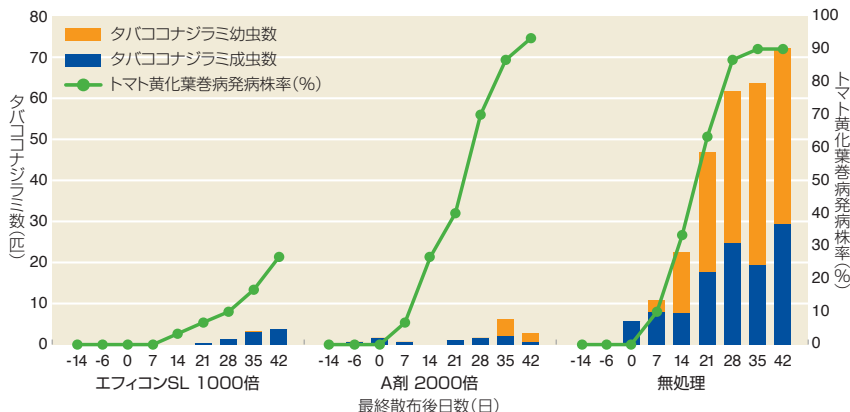
Powered by Axalion[®] Active

落ちる害虫、 活きる益虫。



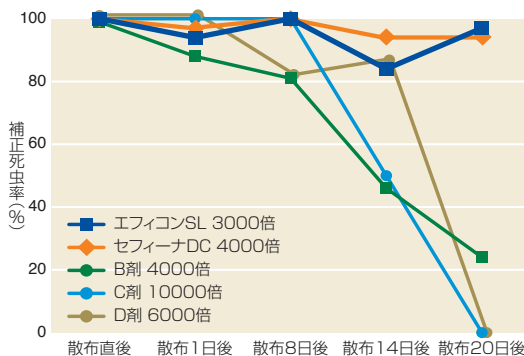
“ブレイキン効果※”による、
抵抗性害虫への優れた効果。
即効的な吸汁阻害によるウイルス媒介抑制。
有益昆虫に影響が少ない事が確認されており、
IPM（総合的病害虫管理）に有効。

※エフィコン[®]SLの有効成分アクサリオン[®]が害虫の弦音器官を沈黙させ、速やかに吸汁や定位といった行動を阻害する効果。
結果として、害虫が植物から落下するといった症状を引き起こす。

**発生初期に散布することで、
高いウイルス媒介抑制効果を発揮****■タバコナジラミに対する防除効果・トマト黄化葉巻病発病抑制効果**

●試験実施機関:熊本県農業研究センター(2020) ●対象害虫:タバコナジラミ タイプQ ●作物:トマト(りんか409) ●試験規模:7㎡(1.4m×5m)・10株/区・3連制・施設栽培 ●試験方法および調査方法:各区合計3回(2020年8月31日、9月8日、9月14日)の散布を行い、前後の成虫数、中・老齢幼虫数およびトマト黄化葉巻病発病株数を調査し、発病株率を求めた。

**A剤と比較してタバコナジラミの虫数はほぼ同等であったにもかかわらず、
エフィコン[®]SLは優れたウイルス媒介抑制効果を示した。**

**優れた移行性により、
作物を長期間保護****■ジャガイモヒゲナガアブラムシに対する防除効果**

●試験実施機関:BASFジャパン(株)AgSF成東(2020) ●対象害虫:ジャガイモヒゲナガアブラムシ ●作物:ばれいしょ(男爵) ●試験規模:1/5000aワグネルポット植え、1区1株、3反復 ●試験方法および調査方法:ポット植えのばれいしょに薬剤を散布(6月11日)し屋外に静置。散布当日、1、8、14、20日後に葉を採取し、1葉あたりアブラムシ幼虫10頭を接種。接種4~6日後に生存虫数を調査し補正死亡率を求めた。尚、試験期間中、総雨量211.5mmの降雨があったが、散布当日直後に影響はなかった。

**エフィコン[®]SLはセフィーナ[®]DC同様に散布後約3週間まで
高い死虫率で推移し、対照剤に比べ優れた残効性を示した。**

■適用病害虫名と使用方法

(色文字が2026年9月適用拡大部分)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジプロピリダズを含む農薬の総使用回数
りんご	アブラムシ類	1000~4000倍	200~700ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
なし	カイガラムシ類	1000倍					
もも	アブラムシ類	1000~2000倍					
おとう	カイガラムシ類	1000倍					
ぶどう	オウトウショウジョウバエ	1000倍	※1	定植当日	1回	灌注	3回以内 (但し、定植時までの 灌注処理は1回以内、 散布は2回以内)
ぶどう	チャノキアザミウマ						
キャベツ	アブラムシ類	250倍	※1	定植当日	1回	灌注	3回以内 (但し、定植時までの 灌注処理は1回以内、 散布は2回以内)
ブロッコリー	アザミウマ類	1000~2000倍					
はくさい	アブラムシ類	250倍	※1	定植当日	1回	灌注	3回以内 (但し、定植時までの 灌注処理は1回以内、 散布は2回以内)
レタス類		1000~4000倍					
レタス類		250倍					
レタス類		1000~4000倍					
トマト	アブラムシ類、コナジラミ類	500倍	50ml/株	定植当日	1回	育苗ポット灌注	3回以内 (但し、定植時までの 灌注処理は1回以内、 散布は2回以内)
ミニトマト	アブラムシ類	1000~2000倍					
なす	アブラムシ類、コナジラミ類	500倍	50ml/株	定植当日	1回	育苗ポット灌注	3回以内 (但し、定植時までの 灌注処理は1回以内、 散布は2回以内)
きゅうり	アブラムシ類	1000~2000倍					
ピーマン	コナジラミ類、アザミウマ類	1000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (但し、定植時までの 灌注処理は1回以内、 散布は2回以内)
すいか	アブラムシ類	500倍					
メロン	コナジラミ類	1000倍	50ml/株	定植当日	1回	育苗ポット灌注	3回以内 (但し、定植時までの 灌注処理は1回以内、 散布は2回以内)
いちご	アブラムシ類	500倍					
いちご	アザミウマ類	1000~2000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (但し、定植時までの 灌注処理は1回以内、 散布は2回以内)
てんさい	アブラムシ類	100倍					
てんさい	アザミウマ類	1000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (但し、定植時までの 灌注処理は1回以内、 散布は2回以内)
ばれいしょ	アブラムシ類	100倍					
だいず	アブラムシ類	2000~3000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内 (但し、定植時までの 灌注処理は1回以内、 散布は2回以内)
だいず	アブラムシ類	2000~4000倍					
茶	チャノミドリヒメヨコバイ	500~1000倍	200~400ℓ/10a	摘採14日前まで	2回以内	散布	2回以内
茶	チャノキアザミウマ						

※1:セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約1.5~4ℓ)当り0.5ℓ ※2:ペーパーポット1冊当り1ℓ(3ℓ/㎡)

△効果・薬害等の注意事項

●使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。●散布量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせて調節してください。●軟弱な苗、または高温条件下で灌注すると薬害を生じるおそれがあるので注意してください。●野菜類への灌注処理後、ポット又はトレイのまま放置すると、葉縁部の壊死やそれに伴う葉の変形を生じるおそれがあるため、灌注処理後はできるだけ速やかに定植してください。●ぶどうの幼果期から果粒肥大期の散布は果粒の溶脱のおそれがあるので使用をさけてください。●茎葉散布は、害虫の発生初期に行い、とくに発生が多くなってからのアザミウマ

類、カイガラムシ類への散布は効果が劣るので、発生状況をよく確認の上、使用してください。●りんごの品種「秋映」では、花弁や葉に薬害(褐変)が生じるので使用しないでください。また、飛散(ドリフト)等により散布液がかからないように十分注意してください。●キャベツの育苗期に灌注する場合は、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。特に、品種「初秋」に使用すると、葉の奇形や生育遅延を生じる場合があるので注意してください。●使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。●適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の

責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。●過度の連用をさけ、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用してください。●空容器等はほ場または環境に影響を与えないよう適切に処理してください。

△安全使用上の注意事項

保管…火気を避け、食品と区別して、直射日光のあたらない低温な場所に密栓して保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。●防除日誌を記録しましょう。

BASFジャパン株式会社〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号 OVOL日本橋ビル3階
☎0120-014-660 <https://crop-protection.basf.co.jp/>詳細やSDSはWEBで
ご覧いただけます。

このチラシの記載内容は2026年9月現在のものです。